

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・通信）

事業者名：社会福祉法人 豊島区社会福祉事業団

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	6
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	2
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	1
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	2

別記第1号の2様式

(4) 介護職の安全	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	

(4) 同左	1	講義のみ：介護職の健康管理、ストレスマネジメント、腰痛予防など、心身の健康管理について解説する。
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		
(1) 同左	3	講義及び演習：介護保険制度創設の目的、動向、仕組み、介護サービスなどを解説する。また、介護保険の申請から利用までを家族の利用を想定し、フローにまとめる。
(2) 同左	3	講義及び演習：障害者総合支援制度の仕組み、日常生活自立支援事業、成年後見制度などを解説する。介護給付等の申請から支給決定までのフローチャートを作成する。
(3) 同左	3	講義のみ：医療と福祉の連携、介護職における医行為の範囲、リハビリテーションの理念などを解説する。
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		
(1) 同左	3	講義及び演習：コミュニケーションの意義、目的、役割等、コミュニケーション技術を解説する。失語、聴覚、視覚障害者等へのコミュニケーション方法をグループで話し合う。
(2) 同左	3	講義及び演習：要介護4の事例を用いて、職員の各種連携の取り方をグループで話し合い、発表する。またアセスメントシートなど各種記録を作成する。
6 老化の理解 6時間		
(1) 同左	3	講義及び演習：老化に伴う心身の変化、日常生活への影響などを解説する。また、退職による社会的立場の喪失感などについて、グループで話し合い、発表する。
(2) 同左	3	講義のみ：高齢者に多い疾病と、日常生活上の留意点、生活習慣病などについて解説する。
7 認知症の理解 6時間		
(1) 同左	1	講義及び演習：認知症のある利用者の事例をもとに、その気持ちについてグループで話し合い発表する。

別記第1号の2様式

(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	
8 障害の理解	3 時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かわり支援の理解	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	7 5 時間
ア 基本知識の学習	10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間
(4) 生活と家事	

(2) 同左	1
(3) 同左	3
(4) 同左	1
8 障害の理解	3 時間
(1) 同左	1
(2) 同左	1
(3) 同左	1
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	7 5 時間
ア 基本知識の学習	10 時間
(1) 同左	2
(2) 同左	4
(3) 同左	4
イ 生活支援技術の講義・演習	5 5 時間
(4) 同左	3

(2) 講義のみ:認知症の概念、病体、認知症による障害、健康管理について解説する。
(3) 講義及び演習:認知症の中核症状等について解説する。その後、認知症のある利用者の事例を用いて、問題行動が出ている背景や、関わり方などをグループで話し合う。
(4) 講義のみ:家族への支援や、介護負担の軽減について事例を交えながら解説する
8 障害の理解
(1) 講義のみ:障害の概念とICFの考え方、障害者福祉の基本理念を解説する。
(2) 講義のみ:身体、知的、精神障害等の特性と介護上の留意点について解説する。
(3) 講義及び演習:家族への支援や、介護負担の軽減について事例を交えながら解説する。また家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについてグループで話し合い、発表する。
9 こころとからだのしくみと生活支援技術
ア 基本知識の学習
(1) 講義のみ:理論と法的根拠に基づく介護について解説する。
(2) 講義及び演習:老化、障害を受入れる過程での感情、生きる意欲の形成、阻害要因等を解説する。その後、事例を提示し、グループで話し合い、発表をする。
(3) 講義のみ:人体各部の名称と働き、神経系統や内部器官などの基礎的知識等を解説する。
イ 生活支援技術の講義・演習
(4) 講義及び演習:家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について解説する。Aさん(要支援2)を想定し、Aさんと一緒に行う家事の支援計画を作成する。

別記第1号の2様式

(5) 快適な居住環境整備と介護	(5) 同左	3	(5) 講義及び演習:家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修等に関する留意点を解説する。要介護2の事例を用いて、具体的な安全に配慮した生活環境について、グループで話し合い発表する。
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 同左	6	(6) 講義及び演習:身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、整容等の意義・効果について解説する。Bさん(要介護3)の更衣、整容等の援助方法、手順等をグループで作成し、それに基づいて実技演習を行う。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 同左	6	(7) 講義及び演習:移動・移乗に関する基礎知識、ボディメカニクス等について解説する。Bさんの移動、移乗の方法・手順等をグループで作成し、実技演習を行う。
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	6	(8) 講義及び演習:食事に関する基礎知識、嚥下等の体の仕組みや介助方法について解説する。食事介助の実技演習を行う。
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	7	(9) 講義及び演習:入浴・清潔保持に関した基礎知識や、留意点などを解説する。事例をもとに自立に向けた入浴・清潔保持の援助方法、手順を作成し、実技演習を行う。
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	6	(10) 講義及び演習:排泄に関連した基礎知識、排泄環境の整備と排泄用具の活用などについて解説する。排泄介護の実技演習を行う。
(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	3	(11) 講義及び演習:睡眠に関する基礎知識、安眠の工夫、環境整備等について解説する。不眠の訴えのある事例により、援助内容や居室の環境整備について、グループで話し合い、発表する。
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	3	(12) 講義及び演習:終末期に関する知識、心と体、および介護従事者の基本的態度と、情報の共有の必要性を解説する。終末期の支援について、グループ討議を行い発表する。

別記第1号の2様式

(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)		(実習) [※] (12時間)		(実習) [※]	
介護実習	○時間	同左	8	特別養護老人ホームで実習を行う。	
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間	同左	4	同行訪問により実習を行う。	
在宅サービス提供現場見学	○時間				
ウ 生活支援技術演習 10～12時間		ウ 生活支援技術演習 10 時間		ウ 生活支援技術演習	
(13) 介護過程の基礎的理解		(13) 同左	5	(13) 講義及び演習: 基本的情報の整理、アセスメント、介護計画(目標・内容)の立案、実施、評価等の流れを解説する。事例から、アセスメント、必要な介護サービス等をグループで話し合う。	
(14) 総合生活支援技術演習		(14) 同左	5	(14) 講義及び演習: Aさんの事例以外にも事例を例示して、具体的な介護内容や留意点等、アセスメント、自立に向けた介護過程の展開をグループで話し合い、支援内容に基づく実技演習を行う。	
10 振り返り 4 時間		10 振り返り 4時間		10 振り返り	
(1) 振り返り		(1) 同左	3	(1) 講義及び演習: 研修や実習を通して学んだことを振り返り、根拠に基づく介護についての要点をグループでまとめ、発表する。	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 同左	1	(2) 講義のみ: 就業時の心構えや、就業後の継続的な知識習得等について説明する。	
追加カリキュラム		追加カリキュラム 16時間		追加カリキュラム	
		介護実習	8	特別養護老人ホームでの実習を1日追加する。(計16時間)	
		在宅サービス提供現場見学	8	デイサービスで見学を行う。	
計 (130 時間)		計 (146 時間)			

※「9 ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。